



2020年の年末に思う～無くしてわかった大切なこと～

皆様こんにちは。佐賀大学理工学部の富永昌人です。山口大学大学院創成科学研究科の中山雅晴先生からバトンを受け取らせて頂きました。中山先生とは電気化学のキーワードで繋がりがあります。学会の懇親会に加えて、近年は支部運営の会議でお話する機会が増えていました。中山先生から貴重なバトンを受け取らせて頂きましたこと、本誌面を借りてまずはお礼申し上げます。

この原稿は12月末に執筆しています。月並みですが、この一年はコロナ禍に始まり、終わった(感染症は収束していませんが。)年であったとって過言ではないと思います。2020年1月頃にはまさかここまでなるとは思いませんでした。前回のSARS(重症急性呼吸器症候群)のように近いうちに収束するものと思込んでいました。その後いろんなことが一気に変わりました。皆様ご存じの通りです。大学に身をおく者としては、講義がすべてWebになったのは衝撃的でした。特に前期担当の科目が多かったせいもあり、パワーポイントを使ったビデオ作成は、200本程度になりました。1コマあたり3本のビデオを配信したので、15コマ分で45本ビデオになりますので200本位は当然でした。パワーポイントの作成に相当の時間を要し、さらにその後の説明収録はひたすらPCに話しかける、なんとも味気ない無機質なものでした。学会もWeb開催になりましたが、発表のときも同様な味気なさを感じてしまいます。参加者の名前だけが表示されて、その様子は全く解らず、ひたすらモニターに話しかけているような。正直、発表の後半では気持ちが萎えてきて、発表に力が入らなくなることがありました。数年経過するとそのような感情もなくなるのかも知れません。いえ、アフターコロナでは、是非、対面での学会発表会の開催を期待したいです。発表会において、関連研究分野の最新情報に触れることはもとより、大学運営に関する情報交換、たわいもない懇親会での会話も重要であると改めてコロナ禍で思い知らされました。

夏前の学会発表会はことごとく中止に追い込まれたのですが、秋からの学会はWeb開催にシフトしていきました。このWeb発表会は約20年前に起こった論文の検索・閲覧の変化に似ているのかなと個人的に感じました。紙媒体の論文雑誌はもう見るのがなく、検索エンジンでキーワードにかかった論文だけをPDFで読むという方法が現在の主流だと思います。そうしますと、キーワードにない論文は全く目に触れない。紙媒体の雑誌を捲っていたときは、それ以外の研究も目に触れる機会がありました。なんか面白そうだなと研究とは直接関係ない論文を読んだ経験があります。コロナ禍前の学会では必ずしもすべてが興味ある発表ではなくても、その会場に留まって発表を聞くことが起こっていました。Web発表会は興味ある研究発表のみを聞いて、それ以外の時間はデスクで仕事をしている。こういった検索エンジンでかかったニュースだけを見るような、現在の興味ある



2020年4月30日撮影 佐賀大学美術館にライトアップされた医療従事者への応援メッセージ

論文だけPDFで読むような、そういった情報の偏りが起こるのだらうかと思っています。よく言えば、効率よく情報を収集できることになります。それが良いことなのかどうかは解りませんが、今後の働き方がジョブ型になっていく流れともリンクしているような気がします。世界はグローバル化して小さくなっているし、我々の研究も更に特化した小さな方向に、意識せずに自然と落とし込まれていくように感じています。

2020年は遠方の学会に赴くこともなく、全く飛行機搭乗の機会がありませんでした。近年は、インドネシアを毎年訪問していました。その都度、これまでの交流を深めるとともに新しい交流関係も広がって訪問を毎年楽しみにしていました。2020年も何回か講演を依頼されて引き受けさせて頂き、当然、Web開催でしたが、新しい交流関係はほとんど構築出来ませんでした。対面で会話を交わし、食事をともにして、その時間と空間を共有することが関係構築に極めて重要であることは理解しているつもりでした。よく健康を害した際に、今までの当たり前だった健康の重要性に気付かされると言われます。理解していることは体感することでホンモノの理解になるのではないのでしょうか。コロナ禍では、今までの当たり前だった人との絆に何が重要だったのかを改めて認識させられました。アフターコロナの世界がどうなるのかは想像が付きませんが、これまで以上に対面で共有する時間と空間を大切にしていきたいと思います。

次のバトンは福井県立大学生物資源学部の植松宏平先生にパスします。植松先生が大学院生であったころからのお付き合いで、学会懇親会等ではいつも楽しくお話をさせて頂いていました。エッセイの依頼を快く引き受けてくださいました。楽しみにしていますので、どうぞよろしくお願ひします。

〔佐賀大学理工学部 富永昌人〕